

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 安藤 大河

1. はじめに

このたび、国際交流基金の助成を受け、2018年2月26日から3月10日までの約2週間、語学留学としてオーストラリアのキングスクリフを訪問したことを報告いたします。滞在中はホームステイをしながら、キングスクリフにある語学学校で英語を学びました。スピーキング・リスニング・ライティングすべてのスキルを向上させ、英語に対するモチベーションを上げるため今回の語学留学に取り組みました。

2. 語学学校

この語学学校では、午前・午後の二部の授業に分かれており、さまざまなレベルの生徒がオーストラリアの文化や習慣・薬局の実態などをクイズ形式で学び、様々な観点から英語力を高めていきました。授業は週5日で9時から17時までで、午前中はLiz先生のオーストラリアの文化・習慣についての授業、午後からは医療関係をテーマとした授業が行われました。オーストラリアの習慣や文化についてはよく用いられる単語や文法について、ゲーム方式で覚え、単語の使い方やその単語の意味を相手にわかりやすく説明できるようになりました。また **speaking** の一環として、あるテーマについてプレゼンテーションを行ったり、英語の早口言葉を練習したりと、楽しみながら英語を学ぶことができました。はじめ私は、自分の伝えたいことが日本語では浮かんでいても、それを言い表す英単語が出てこず、自信がなかったので会話に参加できませんでした。しかし授業中に、伝えたいことを自分の知っている英単語で説明することを学習したため、日本語を英単語に変換させることができずとも、知っている単語で説明することで伝わることに気づき、ホームステイ先の家族に話しかけることで、伝わった時の喜びを味わい自信がつけました。また、新しい英単語を学んで、定着している英単語があまりにも少ないことに気付いたため、友達と一緒にゲーム方式で勝負をすることで学習しようと努力しました。それにより、はじめは授業の内容を理解し相手の話しかけに応じることしかできませんでした。最終日には自分から積極的に話しかけることに成功しました。この学校で学んだことは、英語はもちろんです。そのほかにも勉強になることがとても多く、私自身にとっても貴重な経験になりました。



写真1 全体の集合写真

3. ホームステイの生活について

私が滞在したホームステイ先は、ホストマザーとホストファザー、11歳になる娘の三人家族でした。何度か留学生を受け入れた経験のあるご家庭で、とても親切な家族でした。授業を終えて、その日の宿題をしようとしていると必ず手伝おうかと声をかけてくれるなど、とても優しい家族でした。朝食はホストマザーが仕事前に用意してくれたものを食べ、夕食は家族全員で今日あった出来事を話し楽しみました。夜は日本と異なり早く寝て、朝は早く起きサーフィンに行ってから仕事に行くという習慣がありました。休日は家族と友達でご飯を食べに行ったり、サーフィンをしたりと楽しく過ごすことができました。ホストファミリーが何かと私のことを気にかけてくれ、様々なサポートをしてくださっていたおかげで充実した日々を送ることができました。



写真2 家族

4. 観光について

私とオーストラリア語学研修の生徒で、Currumbin にある有名な Currumbin Wildlife Park という動物園に行きました。この動物園には日本には生息していないようなオーストラリアに住む動物がおり、近くで動物に触れあうことができました。また3月8日の木曜日にはアボリジニの文化を学びにいきました。日本では経験できないような体験ができました。



写真3 アボリジニの文化



写真4 カンガルー

5. おわりに

約2週間の語学研修ではありましたが、日本では体験できない様々なことを行い、様々なことを学ぶことができました。また英語を習得するにあたり、自分の意見をしっかり持ち、少しでも伝えようとする気持ちが重要であり、今後海外の人と接する機会をもっと増やしていき、自信をもって話しかけられるようになりたいと思いました。